

## イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。ここではそのなかのいくつかをご報告します。

### 「平成OSAKA天の川伝説2018」開催中止について

この度の平成30年7月豪雨により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。7月7日(土)に開催を予定しておりました「平成OSAKA天の川伝説2018」は、お客様の安全を最優先に考え、中止とさせていただきます。ご理解を賜りますようお願いいたします。

## 住吉大社 御田植神事 (国指定重要無形民俗文化財)

6月14日 / 住吉大社(大阪市住吉区)

神功皇后が五穀豊穡を祈るため住吉大社に神田を設け、長門国(現在の山口県)から植女(うえめ)を召して御田植奉仕をさせたことにはじまる「御田植神事」。明治時代に入って境内の土地が民間に払い下げられ中断したが、大阪新町廓が御田を買い上げ、芸妓が植女となって神事廃絶の危機を救いました。現在は関西・大阪21世紀協会(上方文化芸能運営委員会)などが、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援しています。この日は、約4,000人の参拝者が見入る中、御田に設えた舞台上で御稔女(みとしめ)による雨乞い祈願の「神田代舞(みとしろまい)」や、田の周囲で無形文化財の住吉踊りなどが奉納されました。

神田代舞を奉納する  
安田奈那子さん



齋牛による代掻き(御田植神事)

## 交流サロン21cafe 八十島(やそしま)の御霊・生國魂神社

中村文隆氏(生國魂神社 筆頭権禰宜) 3月15日 / 中之島センタービル

生國魂神社の筆頭権禰宜・中村文隆氏を招き、同社が約2700年の歴史をもつ大阪最古の神社であることや、御祭神が日本列島そのものの御霊(みたま)であることなどが紹介されました。

同社は、日向国(現在の宮崎県)から瀬戸内海を東征してきた神武天皇が現在の大阪城あたり(当時は上町台地まで海が迫っていた)に着き、ここで生島(いくしま)大神と足島(たるしま)大神を祀ったことに始まります(豊臣秀吉が大坂城築造の際に現在の場所に移転)。この2柱を合わせて八十島(やそしま)大神といい、日本列島そのものの御霊を指しています。平安時代から鎌倉時代には、同社で皇位継承の儀式である「八十島祭(やそしまさい)」が行われていました。



中村文隆氏

## 交流サロン21cafe 大阪の美術館の歴史を振り返って

橋爪節也氏(大阪大学総合学術博物館、大阪大学大学院文学研究科教授)  
6月26日 / 中之島センタービル

近代大阪の美術史が専門の橋爪節也氏を招き、大阪における戦前・戦後の美術館の歴史や、大正時代から戦後の文化行政の理念などを伺いました。例えば大阪で最初の「美術館」は、明治21年(1888)の「大阪府立博物館中央館(美術館)」(大阪市中央区)で、絵画を柱に掲げたり、壁一面に何枚も掲げる見本市会場のような建物でした。大正14年(1925)に東京市を抜いて大阪が日本一の巨大都市になると、行政は「人口が多いだけで一流の都市とはいえない」という考えのもと、美術館を「文化施設」とみなしました。また、佐伯祐三作品のコレクターであった山本發次郎(1887~1951)は、「美術品の蒐集は道楽のように思われているが、私は永遠の文化事業であると信じている」との主旨の名言を残しています。



橋爪節也氏

## 新刊のお知らせ

【関西・大阪21世紀協会編著】

歴史は生きている 最新フィールドノート

## なにわ大坂をつくった100人 古代~15世紀篇

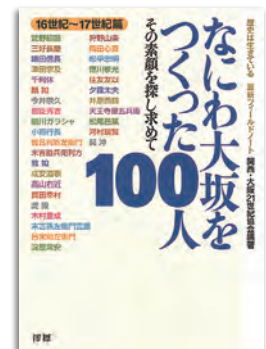
古代から近世まで、なにわ大坂にゆかりの深い100人の痕跡を訪ね、現代にどのように伝わっているのかをルポルタージュするシリーズの第2弾。古代~15世紀に活躍した31人(伝説上の人物を含む)を収録しました。発行予定は8月下旬。発売準備が整い次第、協会ホームページなどでお知らせします。

主な掲載人物：神武天皇、神功皇后、王仁、仁徳天皇、物部守屋、聖徳太子、小野妹子、行基、道鏡、坂上広野麻呂、菅原道真、安倍晴明、渡辺綱(源綱)、楠木正成、北畠顕家、一休宗純など

既刊「16世紀~17世紀篇」は、大阪府内書店、Amazonなどで発売中

\*書店にない場合は、書店にてご注文いただくか、発行元(株式会社滯標)にご注文ください。

発行元：(株)滯標  
大阪市中央区内平野町  
2-3-11-203  
TEL.06(6944)0869  
FAX.06(6944)0600



サイズA5判 / 並製カバー装 / 本文266頁 定価1,600円+税